

Immediate Press Release 2016.10.27

画と機 山本耀司・朝倉優佳
Painting and Weaving Opportunity : Yohji Yamamoto ・ Yuuka Asakura

謹啓 晩秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素はより東京オペラシティアートギャラリーの
展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2016年12月10日〔土〕より2017年3月12日〔日〕まで、「画と機 山本耀司・朝倉優佳」を
開催致します。

時代に流されない反骨精神で世界を刺激しつづけるデザイナー、山本耀司。「画と機」と題された本展は、40
年以上のキャリアを経て今なお斬新なクリエイションを展開する山本耀司の魅力と本質に迫ろうとする企画で
す。

山本は最近のコレクションで、絵画とのコラボレーションを積極的に展開しています。「画と機」というタイト
ルは山本の希望により、編集工学者である松岡正剛が考えたもので、「画」は絵画を、「機」は「はずみ」や「機会」
「機織（服）」を意味します。この二文字は関係性を表し、絵画とファッション、二次元と三次元、男と女など、
反発しながらも惹かれ合い、互いに逃れられないような、創造の根源に触れる危険な関係を暴き出します。また、
つなげて「ガキ」という音のとおり、世間が子どもへ向ける目への反抗や抵抗としての表現とも捉えられます。

本展は、未発表の絵画やインスタレーションなどのほか、ここ数シーズンにわたりヨウジヤマモトの服づくり
に熟を与えた若手画家 朝倉優佳の作品も交え、空間に対峙した新たな創造を生み出します。「画と機」の、衝突
融合 失望 対立 共存 刹那 交替 憧憬 永遠 — の現場をご覧いただけることでしょう。


本展の概要と見どころをご紹介しますので、「画と機」を貴媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知
活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

〔開催概要〕

- 展覧会名： 画と機 山本耀司・朝倉優佳
会期： 2016年12月10日〔土〕— 2017年3月12日〔日〕
会場： 東京オペラシティ アートギャラリー
開館時間： 11:00—19:00（金・土は20:00まで／最終入場は閉館の30分前まで）
休館日： 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、2016年12月26日〔月〕— 2017年1月3日〔火〕（年末年始）
2月12日〔日・全館休館日〕
入場料： 一般1,200（1,000）円／大・高生800（600）円／中学生以下無料

- * 同時開催「収蔵品展057 人間 この未知なるもの」、「project N 66 村上早」の入場料を含みます。
- * 収蔵品展入場券200円（project Nを含む／割引無し）もあり。
- *（ ）内は15名以上の団体料金。
- * 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- * 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

- お問合せ： 03-5777-8600（ハローダイヤル）
ウェブサイト： <http://www.operacity.jp/ag/>  <https://www.facebook.com/tocag>
主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
協賛： 日本生命保険相互会社
協力： 相互物産株式会社
特別協力： 株式会社ヨウジヤマモト

リリースに関するお問い合わせ
東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】堀 【広報担当】吉田
Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email: ag-press@toccf.com



photo: 田原桂一

制作中の作品（彫刻/山本耀司、絵画/朝倉優佳）を写真家 田原桂一が撮影した一枚



YOHJI YAMAMOTO Spring / Summer 2016 Paris Collection

ヨウジヤマモト 2016年春夏パリコレクションより、朝倉優佳の絵画がプリントで施されたドレススック

1. トップデザイナーの魅力と本質に迫る

時代に流されない反骨精神で世界を刺激しつづけるトップデザイナー、山本耀司。山本は最近のコレクションで、絵画とのコラボレーションを積極的に展開しています。「画と機」と題された本展は、40年以上のキャリアを経て今なお斬新なクリエイションを展開する山本耀司の魅力と本質に迫ります。

2. 画と機

「画と機」という展覧会名は山本の希望により、旧知の編集工学者である松岡正剛が考えたものです。「画」は絵画を、「機」は「はずみ」や「機会」「機織（服）」を意味します。この二文字は関係性を表し、絵画とファッション、二次元と三次元、男と女など、反発しながらも惹かれ合い、互いに逃れられないような、創造の根源に触れる危険な関係を暴き出します。また、つなげて「ガキ」という音のとおり、世間が子どもへ向ける目への反抗や抵抗としての表現とも捉えられます。誰もが子どもであった時期があり、誰もが子どもの頃の断片を持ち続けているはず—そんなメッセージとしても解釈できるでしょう。

朝倉優佳の絵画にもそうした自由奔放さが満ち溢れています。2016年春夏メンズ&ウィメンズコレクションから数シーズンにわたりヨウジヤマモトとコラボレーションピースを発表した朝倉は、大型の絵画作品をはじめとし、ときに山本の服に大胆なペイントを施し、また、壁画制作やライブ・ペインティングも積極的に展開しています。

3. 奇抜で革新的な創造性の根源に触れる

本展のために山本耀司が制作した絵画や彫刻、さらには美術館の会場で制作した作品も展示されます。一見混沌としたなかに、相反する力が複雑に作用して、奇抜で革新性に富んだ空間が現出します。アーティストの創造の根底にあるものをそこに垣間見ることができるはずです。

服は展示されていますが、よくみかけるマネキンとは全く違う異形のボディが、思い思いの着方で並びます。ファッション展のイメージを持って来た方は、その期待をものに見事に裏切られることでしょう。

山本耀司 プロフィール

慶応義塾大学法学部、文化服装学院卒業。1981年のパリコレクションで世界のファッション界に衝撃を与え、以後もさまざまな革新的スタイルを創造しつづける。『Talking to Myself』『YAMAMOTO&YOHJI』など著書、作品集多数。

朝倉優佳 プロフィール

女子美術大学大学院博士後期課程絵画領域在籍。同大学大学院在学中の2012-13年にドイツ・ニュルンベルクに一時滞在、制作を行う。大型の壁画制作や、ライブ・ペインティングなど積極的に絵画活動を展開する。